



芋川流域のあゆみ -砂防と地域の年表-

年月日	災害と砂防	地域の動き
2004年 平成16年 10月	23日、17:56新潟県中越で震度7、M6.8の地震発生① 27日、土砂災害緊急対策緊急支援チームによる土砂災害危険区域緊急点検開始②	24日、山古志村村長「全村避難」表明 27日、山古志村全村避難完了 30日、センサー作動により竜光地区全員避難
11月	2日、泉田新潟県知事より国土交通省へ直轄砂防事業実施要請 5日、芋川流域寺野、東竹沢地区の直轄砂防災害関連緊急事業実施決定。新潟県が行っていた河道閉塞対策を引継ぎ、ポンプ排水開始③	24日、仮設住宅完成。 避難所から仮設住宅への引越し始まる
12月	28日、東竹沢地区で融雪出水対応可能な仮排水路工事完了	26日、竜光地区約80名が東竹沢地区現地視察④
2005年 平成17年	3月14日、前日からの大雪で過去最大の積雪量を観測 6月28日、過去最大級の日雨量となる豪雨により中越各地で氾濫被害などが発生⑥ 10月23日、山古志中学校生徒の希望で東竹沢地区現場見学会開催	3月1日、「中越大震災復興ビジョン」答申される。 4月1日、長岡市と山古志村が合併 5月1日、山古志住民が自由に山古志地域に入れるようになる。 6月22日、旧東竹沢小学校で、校舎解体を前に住民がお別れ会⑤ 7月22日、山古志8集落で避難指示解除 10月23日、中越大震災1周年の追悼・復興祈願式典
2006年 平成18年	6月、芋川流域で直轄地すべり対策事業に着手。対象を19地区とした。 8月、東川砂防えん堤完成 10月17日、公開講座「魚沼自然塾」（湯沢砂防事務所主催）で東竹沢地区を見学⑨ 12月、神沢川・十二平・寺野・南平・冷子沢・塩谷・西願寺の各地区の砂防堰堤完成	3月17日、国道291号の山古志トンネルが開通 9月1日、長岡市山古志支所（旧山古志村役場）開所 9月3日、地震で被災した国道291号が全域開通 9月17日、「全国闘牛サミット」記念闘牛大会開催⑦ 10月1日、「中越復興フェックスマラソン&ウォーク」開催⑧ 10月30日、山古志小中学校（合同新校舎）が中越地震以来2年ぶりに再開 11月29日、「新羽黒トンネル」が開通
2007年 平成19年	1月、東竹沢地区の砂防堰堤完成 6月、水没した木箒集落移転地の造成完了 中越地震に伴う崩壊等に対する土砂災害防止対策を推進し、再度災害を防止する事業を実施 12月、東竹沢砂防えん堤の排水路転流	4月1日、避難指示区域なくなる（池谷、大久保、榑木、木箒、梶金の解除）。 8月15日、山古志闘牛場で角突きが本格的に復活。 9月30日、中越復興フェックスマラソン&ウォーク2007開催 12月23日、長岡市陽光台の仮設住宅を閉鎖し、「やまこし帰村式・感謝の集い」開催 12月31日、陽光台の仮設受託解消
2008年 平成20年	3地区（池谷・大久保地蔵・下塩谷地区）で地すべり対策工着手。	3月9日、「古志の火まつり」4年ぶりに開催
2009年 平成21年	5地区（木籠対岸・小松倉前沢・峠塩谷川下流・峠塩谷川・中十二平地区）で地すべり対策着手	10月18日、震災5年の節目に長岡市が山古志で大規模防災訓練を実施⑩
2010年 平成22年	2地区（榑木・下十二平地区）で地すべり対策工着手	第1回つなごう山古志の心展開催
2011年～		2011年10月、長岡震災アーカイブセンター“きおくみらい”、小千谷震災ミュージアム“そなえ館”、“川口きずな館”開館

芋川流域のあゆみ -写真でたどれば-



①新潟県中越地震の発生
(国道 291 号木籠付近 2004.10.23)



②土砂災害危険区域緊急点検開始
(2004.10.27)

③湯沢砂防事務所が新潟県から河道閉塞対策を引き継ぎ、ポンプ排水を行う
(東竹沢地区 2004.11.5～)



④東竹沢地区で仮排水路工事がほぼ完成し、竜光地区約 80 名が東竹沢地区を現地視察 (2004.12.26)



⑤旧東竹沢小学校で、校舎解体を前に住民がお別れ会 (2005.6.22)



⑥中越地域に過去最大級の豪雨があり、各所で氾濫被害などが発生 (2005.6.28)



⑦「全国闘牛サミット」記念闘牛大会が山古志闘牛場で開催された (2005.9.17)



⑧「中越復興フェニックスマラソン&ウォーク」が開催された (2005.10.1)



⑨公開講座「魚沼自然塾」(湯沢砂防事務所主催)で東竹沢地区を見学 (2005.10.17)



⑩震災 5 年の節目に長岡市が山古志で大規模防災訓練を実施 (2005.10.18)

* これらの写真は年表中の①～⑩の記事に対応しています。



- 芋川の経験が活きる - 各地の大規模土砂災害への対応

●新潟県中越地震の貴重な経験

土砂移動で川がせき止められる河道閉塞（土砂ダム）は、規模が大きい場合、下流にとって脅威となります。新潟県中越地震の際、芋川流域では全国から人・技術・機材を結集して決壊の危機を回避することができました。

その経験から大規模土砂災害時の初動対応態勢と河道閉塞の対策技術が磨かれ、その後発生した各地の災害現場で活かされました。

●各地の大規模土砂災害への対応

◆岩手・宮城内陸地震 平成 20 年 6 月



荒砥沢ダムの上流で発生した大規模な地すべり（宮城県栗原市）



土砂ダムの対策工事（ポンプ排水を行いながら水路を掘削中 岩手県一野々原地区）

大規模災害時に、国が都道府県を支援するしくみである「緊急災害対策派遣隊（テックフォース）」が平成 20 年度に発足したことにより、被害状況の把握や排水ポンプなどの機材投入が迅速に行われました。



テックフォースの出動ミーティング



危険箇所点検の様子

◆長野県北部地震 平成 23 年 3 月

東日本大震災に長野県北部地震が重なり、雪解け前の長野・新潟県境山間部で地すべりや土石流が発生しました。警戒避難の対応等に、中越地震の経験が活かされました。



津南町辰ノ口で発生した土石流

◆台風 12 号災害 平成 23 年 9 月

豪雨により、紀伊半島の山間部に「深層崩壊」と呼ばれる大規模な崩壊と多数の土砂ダムが生じました。

早期から土砂ダムの監視と安全の対応が行われました。



奈良県十津川村栗原に生じた深層崩壊と土砂ダム



奈良県五條市赤谷に生じた深層崩壊と土砂ダム